

全ての構造物を表示すること。

擁壁断面図

各構造物の仕様や設計条件等及び特記事項を記入すること。

L型擁壁 設計条件及び特記事項

＊設計条件
上載荷重 $Q=10.0\text{ kN/m}^2$
鉄筋コンクリートの単位体積重量 $\gamma=24.5\text{ kN/m}^3$ (道路)
 $\gamma=24.0\text{ kN/m}^3$ (宅地)
裏込(埋戻)土の単位体積重量(砂利、砂) $\gamma=19.0\text{ kN/m}^3$ (道路)
 $\gamma=18.0\text{ kN/m}^3$ (宅地)
裏込(埋戻)土の内部摩擦角(砂利、砂) $\phi=30^\circ$
基礎地盤の摩擦係数(砂利、砂) $\mu=0.50$
背面形状 水平
必要地耐力 寸法表記載

＊特記事項

擁壁全般

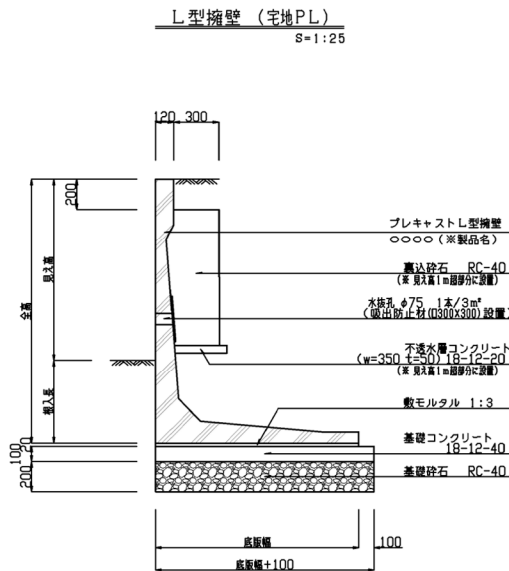
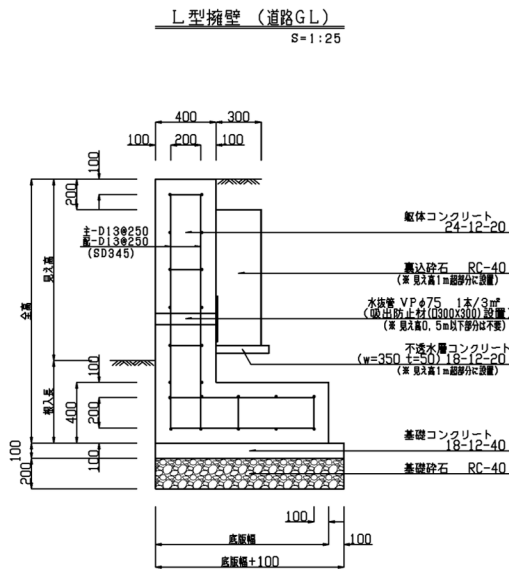
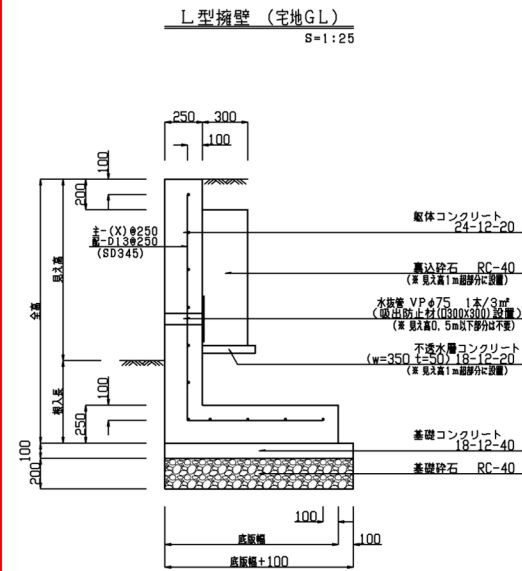
- 「擁壁基礎地盤の地耐力をスクリーウイト貫入試験(必要地耐力が 120 kN/m^2 超の場合は平板載荷試験)等で確認すること。確認の結果、地耐力が確保できておらず地盤改良が必要となる場合には、事前に改良工法、改良範囲、改良材配合量(六面クロム溶出確認含む)等を検討し設計者と協議すること。また、改良体の強度は一軸圧縮試験により確認し、供試体の採取状況は工事写真で記録すること。(詳細は「地盤改良工のチェックリスト」を参照)」
- 「擁壁背面及び擁壁基礎地盤の土(材料が変わる場合には材料毎)において三軸圧縮試験等を行い、内部摩擦角、摩擦係数及び裏込土の単位体積重量が設計条件を満たしているかを確認すること。また、土の採取状況は工事写真として記録すること。」

現場打ち鉄筋コンクリート擁壁

- 「鉄筋の重ね継手長及び定着長は、主鉄筋においては鉄筋の直径の40倍以上とし、配力鉄筋においては鉄筋の直径の35倍以上とすること。ただし、配筋を複鉄筋にする場合は、圧縮鉄筋側においては鉄筋の直径の35倍以上とすることができる。また、フック長は、鉄筋の直径の15倍以上とすること。」
- 「鉄筋組立の施工にあたっては、擁壁規格毎に断面本数、ピッチ、かぶり、定着長、重ね継手長、鉄筋径(ロールマーク)を適切に管理し、工事写真として記録すること。特に隅角部については、配筋状況及び定着長等を確認できるよう、遠景・近景及び計測写真等を記録しておくこと。」
- 「スパーサーについては、本体コンクリートと同等程度以上の品質を有するモルタル製またはコンクリート製を用いること(縦壁、底版共)。底版上面鉄筋を支える組立筋についても底面側にはスパーサー等を使用するなどし、組立筋が直接、基礎コンクリートに接することが無いよう施工すること。」
- 「擁壁縦壁の施工にあたって擁壁底版の上面に浮き止め筋を設置した場合は、擁壁の埋め戻し前に浮き止め筋をコンクリート表面で切断し、切断箇所を防錆材の塗布、モルタル等による穴埋め等の防錆処理を行うこと。また、その状況を工事写真で記録しておくこと。」
- 「見え高が 2.0 m を超える区間の現場打ち鉄筋コンクリート擁壁は、市による中間検査が必要となることから、事前に設計者と協議すること。なお、中間検査は鉄筋組立完了時に、基礎(地盤改良がある場合は改良を含む)及び鉄筋組立の施工状況等を現地及び書類(自主検査報告書、施工写真、品質試験結果報告書等)で確認を受けるものであり、必要となる書類等を事前に整理しておくこと。」

プレキャストL型擁壁

- 「水抜穴は擁壁前面地盤に埋没しない位置に配置し、加工は工場で行うこと。」
- 「吊金具等の穴埋めはモルタル等で適切に行うこと。」
- 「製品の連結部には土砂等の流出を防止するため、擁壁背面縦目継方向全面に吸出防止材等を設置すること。」



L型擁壁 (道路 GL) 寸法表

	全高 (mm)	見え高 (mm)	根入長 (mm)	底版幅 (mm)	排水工		主筋 径	配筋 @	必要地耐力 (kN/m^2)	隅角部	出来形管理 (※)	備 考
					水抜管	裏込材						
道路GL-1	1100	750~500	350~600	1500	要	-	D13	250	49	無	○	
道路GL-2	1700	1350	350	1700	要	要	D13	250	75	有	○	
道路GL-3	1850	1500	350	1750	要	要	D13	250	81	無	○	

L型擁壁 (宅地 GL) 寸法表

	全高 (mm)	見え高 (mm)	根入長 (mm)	底版幅 (mm)	排水工		主筋 径	配筋 @	必要地耐力 (kN/m^2)	隅角部	出来形管理 (※)	備 考
					水抜管	裏込材						
宅地GL-1	850	500	350	650	要	-	D13	250	40	無	-	任意擁壁
宅地GL-2	1000	650	350	700	要	-	D13	250	50	有	-	任意擁壁
宅地GL-3	1100	750	350	750	要	-	D13	250	55	無	-	任意擁壁
宅地GL-4	1700	1350	350	1100	要	要	D13	250	82	有	○	
宅地GL-5	1850	700~1350	1000~350	1200	要	要	D13	250	87	無	-	
		1400~1500	450~350		要	要				無	○	

L型擁壁 (宅地 PL) 寸法表

	全高 (mm)	見え高 (mm)	根入長 (mm)	底版幅 (mm)	排水工		主筋 径	配筋 @	必要地耐力 (kN/m^2)	隅角部	出来形管理 (※)	備 考
					水抜管	裏込材						
宅地PL-1	800	450	350	650	-	-	製品仕様	35	35	-	-	任意擁壁
宅地PL-2	1100	750	350	800	要	-	製品仕様	46	46	-	-	任意擁壁
宅地PL-3	1900	1550	350	1250	要	要	製品仕様	90	90	-	-	
宅地PL-4	2200	1850	350	1400	要	要	製品仕様	100	100	-	○	

※ 整備する擁壁の施行状況記録及び出来形管理は全数で行うこと。
そのうち、本開発事業の完成時には、上表の出来形管理欄で「○」を表示している擁壁に係る施工及び出来形管理状況が確認できる資料(写真、自主検査報告書等)を完了図書として大津市に提出すること。

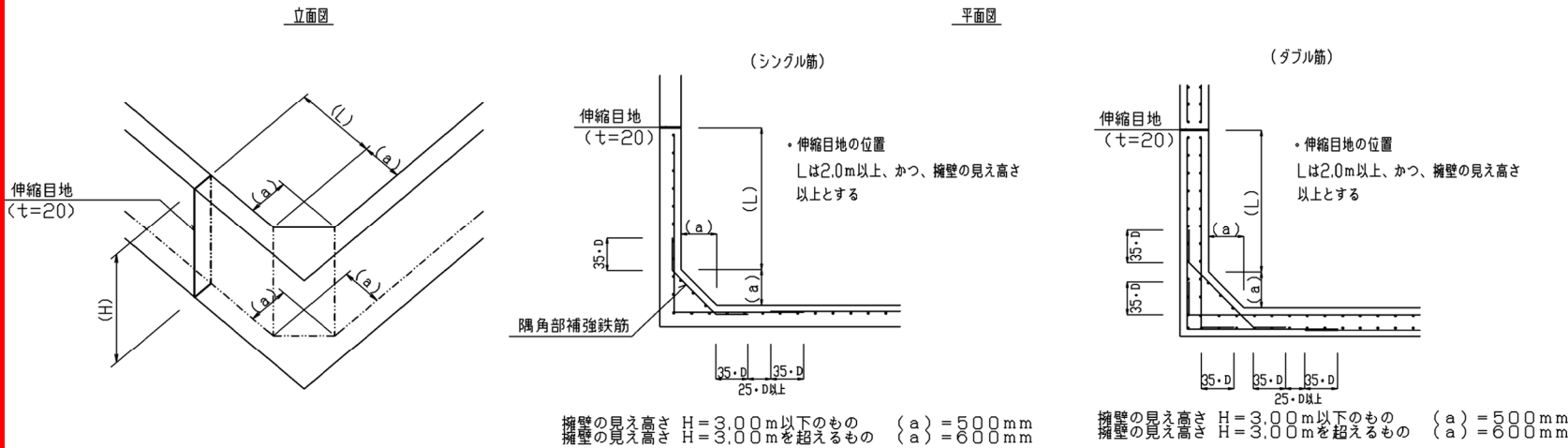
寸法表

隅角部補強図

補強が必要な角度は135度以下とする。
当該箇所に応じて、単鉄筋図及び複鉄筋図を表示すること。
別紙⑥に示す特記事項を表示すること。

L型擁壁 (GL) 隅角部補強図

S=(F)

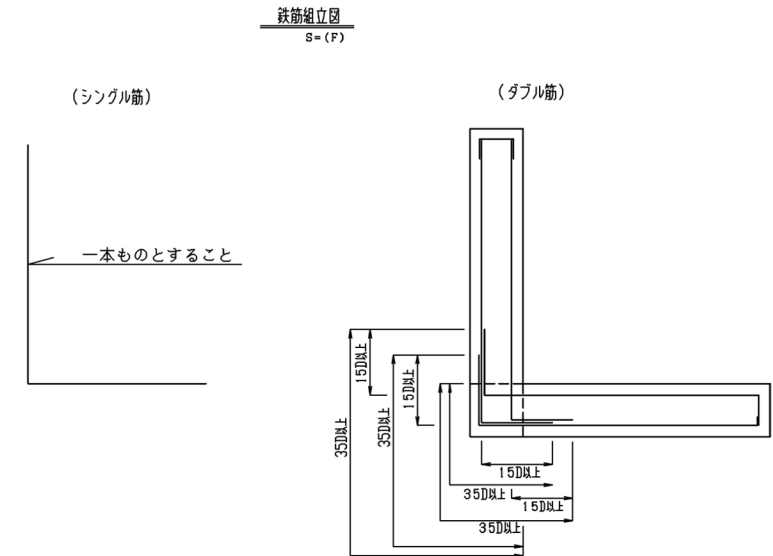


＊特記事項

隅角部補強図(現場打ち鉄筋コンクリート擁壁の場合)

- 「鉄筋の重ね継手長は、鉄筋の直径の35倍以上とすること。」
- 「隅角部における擁壁本体の配力鉄筋(ダブル鉄筋の場合は、擁壁前面側配力鉄筋)の重ね継手は隅部をはさむ二等辺三角形の部分には設けないこと。また、隅角部補強鉄筋の重ね継手部より25d以上離れた位置に設けること。」
- 「隅角補強鉄筋は、重ね継手とせずに、1本もので加工すること。」
- 「補強部の配筋(ピッチ)は、一般部の擁壁の主筋及び配力筋に準じて配筋すること。」

鉄筋加工図



事業名	〇〇〇〇事業
事業場所	大津市〇〇〇一丁目
事業者	〇〇株式会社
設計者	〇〇株式会社 大津 太郎
製図年月日	令和〇年〇月〇日 施尺 図示
図面名	擁壁構造図